

令和7年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(学校推薦型選抜Ⅱ)

小論文

(医学部 保健学科)

(注意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は1ページ、解答用紙は1枚である。指示があってから確認すること。
3. 解答はすべて解答用紙の指定のところに記入すること。
4. 下書きをする場合は、問題冊子の余白を利用してよろしい。
5. 問題冊子は持ち帰ること。
6. 解答用紙は持ち帰ってはならない。
7. 解答用紙の上の欄に受験番号を記入すること。

令和7年度 鳥取大学医学部保健学科入学者選抜試験
(学校推薦型選抜Ⅱ)

問題 次の課題文を読んで後の問いに答えなさい。

さて、天才ではないわれわれは、どうすれば自分の頭のなかにこびりついている仮説に気づくことができるようになるのでしょうか？

わたしが敬愛するポール・ファイヤーセント(1924～94年)という科学哲学者は、こんなアドバイスをしてくれています。

「タブーに挑戦し、あらゆる仮説に触れてみよ」

とにかく、いろいろな仮説にじかに触れてみるのが大切だ、というのです。

ガリレオの望遠鏡を否定した教授たちは、自分たちの仮説をおびやかす代替案に耳を傾けることを拒否しました。それは、社会でタブーと呼ばれるものです。

ファイヤーセントは、あえてタブーに挑戦し、あらゆる仮説に触れることにより、知的な「免疫力」をつける、というのです。

たとえば、われわれは自由な民主主義国家に住んでいますが、あえて、専制国家や共産主義国家の「思想」にも触れてみよ、というのです。あるいは、国家そのものを否定するアナキズムの考えも知る必要があるでしょう。

また、日本人のほとんどは無宗教で、国自体にも政教分離の原則がありますが、世界の多くの国々では、宗教指導者が同時に政治を司っています。ですから、そういった国々における宗教的な教えも知っていたほうがいいのです。

仮説の呪縛からのがれる万能薬などありません。

ですが、できるだけたくさんの仮説を見比べることにより、だれでも、支配的な仮説を疑うことは可能なのです。

ようは、「心の準備」があるかどうかでしょう。

出典：竹内薫、『99・9％は仮説 思いこみで判断しないための考え方』
(光文社2006) p.95～p.97 より抜粋・一部改変。

問. 問題文で言う「心の準備」のために、大学入学後どのようなことをすべきだと思うか。あなたの考えを600字以内で述べなさい。